



越生町長 新井 雄啓氏

## 町長のメッセージ

越生町は、都心から1時間圏内にありながら、関東三大梅林の「越生梅林」や新日本観光地百選にも選ばれた「黒山三滝」をはじめとする、多くの観光資源に恵まれている町です。また、平成28年4月に全国で初めて「ハイキングのまち」を宣言し、ハイキングコースも充実しております。みなさんもぜひ、「首都圏における癒しの郷」越生町の自然に触れることで、仕事などで疲れた心と体をリフレッシュされてみてはいかがでしょうか。

町では今後も「活力ある越生の創造」をスローガンに掲げ、町民のみなさんとともに、子どもたちに誇れる町づくりを進めてまいります。

## はじめに

越生町は都心から約50km、埼玉県の西部に位置し、北はときがわ町、東は鳩山町、南は毛呂山町、西は飯能市に接している、東西9.5km、南北7.9km、面積40.39km<sup>2</sup>、人口11,402人の町である。外秩父山地が関東平野と出会うところに位置し、町の約7割を山地が占め、町の中央を一級河川越辺川<sup>おつべがわ</sup>が流れる自然豊かな町である。

交通面はJR八高線と東武越生線が通り、八高線と東武越生線の結節点である越生駅のほか、東武越生線の武州唐沢駅の2駅が設けられている。町の中心部へは関越自動車道坂戸西スマートIC、圏央道圏央鶴ヶ島ICから15分程度と、交通利便性が高い。

関東三大梅林として有名な越生梅林や、黒山三滝など観光名所も多数あり、1年を通じて多くの観光客が訪れる。

## 全国初となる公営樹木葬・樹林葬墓苑を整備

豊かな自然に恵まれ、数多くの名勝地と歴史文化遺産が多くあることから、もともと町内にはハイキングスポットが多数あった。町では町民の健康づくりと、町外から訪れるハイカーを、町をあげておもてなしの心で歓迎しようと、平成28年に越生町ハイキングのまち宣言を行った。

毎月第二土曜日に開催される月例ハイキング大会には、町内外の多くの方が参加している。この月

例ハイキング大会では年間12回のうち、9回参加すると記念品が贈呈される。首都圏の方に繰り返し癒しの機会を提供するとともに、町の活性化にもつながる仕組みとなっている。

町は、JR越生駅の無人化に伴って譲渡され、その後老朽化のため取り壊された駅舎の跡地に、観光案内と待合い機能を併せ持つ新たな施設を建設中である。新たな施設は、越生周辺で伐採された西川材や越生の建具を使い、伝統と現代技法を取り入れたおもてなし施設となる。年内には完成予定で、越生町を訪れる際には、木の香り漂う新たな施設が、温かく迎えてくれるだろう。

## 全国初となる公営樹木葬・樹林葬墓苑を整備

高齢化に伴う死亡者数の増加による墓地の不足、少子化や非婚化などの影響による墓地の継承・維持管理の困難化を受け、墓地についての不安を抱



町営樹木葬墓苑「五大尊花木墓苑」

## 越生町概要

人口(2020年7月1日現在)	11,402人
世帯数(同上)	5,018世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	51.8歳
面積	40.39km <sup>2</sup>
製造事業所数(工業統計)	29所
製造品出荷額等(同上)	67.4億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	81店
商品販売額(同上)	56.0億円
公共下水道普及率	51.6%
舗装率	33.5%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- JR八高線 越生駅  
東武越生線 越生駅、武州唐沢駅
- 関越自動車道 坂戸西スマートICから町役場まで約10km  
圏央道 圏央鶴ヶ島ICから町役場まで約12km

える高齢者が増加するなか、町では町民が安心できるよう町営の樹木葬墓苑「五大尊花木墓苑」を整備した。越生町中心部を見渡すことのできる五大尊つつじ公園の一画の高台にあり、関東平野も一望できる。従来のように墓石を設けず、できる限り自然のまま土に還る自然葬という新しい供養の形を実現した墓苑で、樹木葬と樹林葬に特化した公営墓苑としては全国的にも初となる。

植栽する樹木をつつじに限定したことにより、将来つつじが成長すると、五大尊つつじ公園の景観との一体感がさらに増すことになる。

本墓苑は町民だけではなく、ふるさと納税で越生町に1万円以上を寄付し、越生町ふるさと住民票を取得した町外の方も申し込み資格が得られる。墓地問題に悩む首都圏在住の方にとっても一考に値する制度で、自然あふれる環境や眺望も魅力だ。

1歳の誕生日には、越生町産の西川材を使用した手作りの積み木と玩具がプレゼントされる。このプレゼントは町長から対象世帯に直接届けられる。さらに、在宅で養育している場合には、2歳の誕生日にも絵本がプレゼントされる。

医療費の助成についても手厚い。子どもの医療費の助成は中学校卒業までが多いなか、町では18歳に到達した年度末までの助成を行っている。

教育にも力が入る。義務教育については、町独自で35人学級を実施するとともに、学びの連続性を重視し、小中9年間を見通した授業計画に基づいた指導が行われている。また、体験を通じて好奇心や探求心を育んでもらおうと、平成29年に「越生子ども未来大学」が設置された。多様な分野の専門家による体験型の授業が行われ、令和元年度には町内外の200名弱の小中学生が参加した。

(太田富雄)

## 子育てと教育のまち

全国的に少子高齢化が進むなか、町は恵まれた自然の中で子ども達が健やかに育ち、安心して学べるよう子育て支援と教育の充実に力を注いでいる。

子育て支援については、妊娠さんの体への負担や経済的な負担を軽減し、健やかな出産となるよう、妊娠タクシー利用料金助成事業を行っている。出産後には、新生児聴覚検査費用や産後検診費用の助成制度もある。ベビーベッド無料貸出制度もあり、子育て世帯から重宝がられている。



「越生子ども未来大学」で「自動車講座 車はなぜ動くの?!」に参加する子ども達